

2007年4月

## 全国の小学生の子を持つ親 664 名に聞いた 『子育てや学校教育に関するアンケート調査』

～習い事は男児「水泳」、女児「楽器・音楽」が一番人気。「地域の安全」には8割、「学校の安全」にも6割の親が不安。～

第一生命保険相互会社（社長 斎藤 勝利）のシンクタンク、（株）第一生命経済研究所（社長 石嶺 幸男）では、全国に居住する小学生の子を持つ親 664 名を対象に、標記についてのアンケート調査を実施いたしました。

この程、その調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

### 《調査結果のポイント》

#### 小学生の放課後と休日の過ごし方 (P2)

- 放課後は「友達と遊ぶことが多い」(75%)が最も多く、休日は「親やきょうだい、祖父母など家族と過ごすことが多い」(75%)が最も多い。
- 放課後は、習い事に約4割、学習塾に約3割の小学生が通っている。
- 休日でも、1割強の小学生は習い事に通っている。

#### 小学生の習い事 (P3)

- 約9割の小学生は、何らかの習い事(学習塾含む)をしている。
- 習い事の中では、男児は「水泳」(34%)、女児は「楽器・音楽」(39%)が最も多い。
- 男児・女児ともに、約4人に1人は「学習塾」に通っている。

#### 子どもの生活環境に関する不安 (P4)

- 「地域の安全面」に不安を感じている親は、約8割もいる。
- 「学校の安全面」や子どもの将来を見据えた「教育面」に不安を感じている親は、約6割。

#### 子どもへのかかわり方 (P5)

- 「学校行事への参加」や「子どもの友達の把握」には、9割以上の親が積極的。
- 子どもの「忘れ物のチェック」や「宿題の確認」、「勉強を教えること」は、約8割の親が積極的に行っている。

#### 子どもに能力や態度を身につけて欲しい場 (P6)

- 学校教育では、「基礎学力」「人間関係」「運動能力」。
- 家庭教育では、「読書」「英語力」「コンピュータ」「芸術」。

#### 学校教育に対する満足度 (P7)

- 「学習指導」や「人間関係作り」には、約8割の親が満足している。
- その一方で、「運動能力の向上」や「いじめ防止」には、約4割の親が満足していない。

#### ＜お問い合わせ先＞

(株)第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部  
研究開発室 広報担当 (室井・新井)  
TEL. 03-5221-4771  
FAX. 03-3212-4470

【アドレス】<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi>

☆本報告書は、当研究所から隔月発行している『ライフデザインレポート』3-4月号をもとに作成したものです。

レポートご希望の方は、左記の広報担当、またはホームページからお申し込みください。

## 《アンケート調査の実施概要》

1. 調査地域と対象                      全国の小学生の子を持つ保護者
2. サンプル数                            664 名
3. サンプル抽出方法                    第一生命経済研究所生活調査モニター
4. 調査方法                              質問紙郵送調査法
5. 実施時期                              2006 年 12 月
6. 有効回収数(率)                      612 名 (92.2%)
7. 回答者と子どもの属性

【回答者の属性(性・年齢別)】

		全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	無回答
全体	(人)	612	5	280	298	28	1
	(%)	100.0	0.8	45.8	48.7	4.6	0.2
男性	(人)	161	0	41	101	19	0
	(%)	100.0	0.0	25.5	62.7	11.8	0.0
女性	(人)	450	5	239	196	9	1
	(%)	100.0	1.1	53.2	43.7	2.0	0.0
無回答	(人)	1	0	0	1	0	0
	(%)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

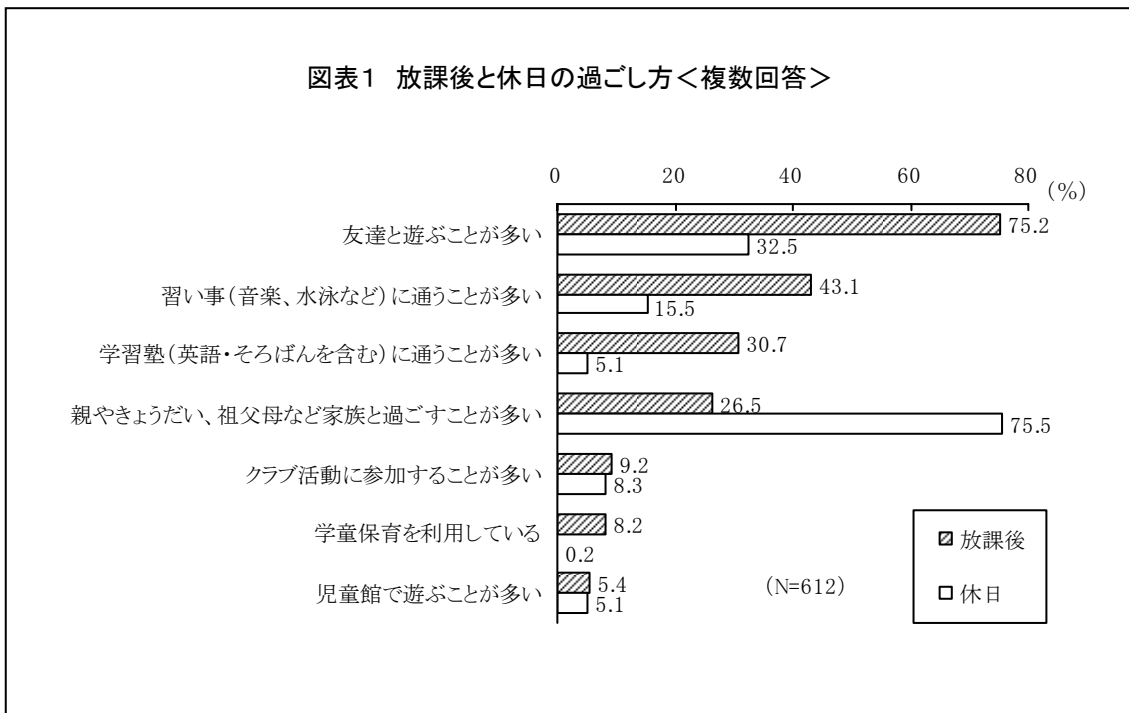
【小学生の属性(性・学年別)】

		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	無回答
全体	(人)	612	110	120	107	105	71	89	10
	(%)	100.0	18.0	19.6	17.5	17.2	11.6	14.5	1.6
男児	(人)	297	45	61	51	56	36	46	2
	(%)	100.0	15.2	20.5	17.2	18.9	12.1	15.5	0.7
女児	(人)	308	65	59	56	49	35	43	1
	(%)	100.0	21.1	19.2	18.2	15.9	11.4	14.0	0.3
無回答	(人)	7	0	0	0	0	0	0	7
	(%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

# 小学生の放課後と休日の過ごし方

放課後は「友達と遊ぶことが多い」(75%)、休日は「親やきょうだい、祖父母など家族と過ごすことが多い」(75%)が最も多い。  
放課後、習い事には約4割、学習塾には3割の小学生が通っている。

図表1 放課後と休日の過ごし方<複数回答>



子どもの普段の生活状況について、放課後と休日それぞれの様子をたずねました。

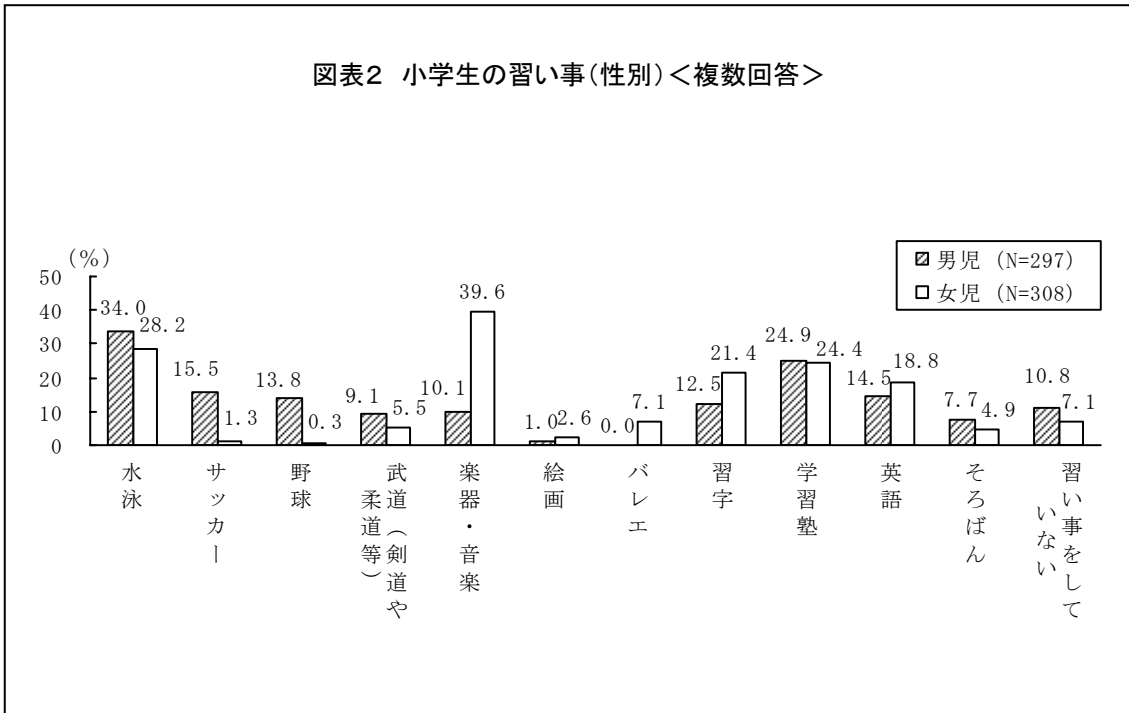
その結果、放課後については、「友達と遊ぶことが多い」(75.2%)が突出して多い一方で、「習い事(音楽、水泳など)に通うことが多い」(43.1%)や「学習塾(英語・そろばんを含む)に通うことが多い」(30.7%)も少なくありません。また、地域の子どもに安全な遊び場を提供している「児童館で遊ぶことが多い」(5.4%)は極めて少ないことがわかりました。なお、今回の回答者では、母親がフルタイムで働いている家庭が少ないことを反映して、「学童保育を利用している」(8.2%)は少ない結果になりました。

休日については、「親やきょうだい、祖父母など家族と過ごすことが多い」(75.5%)が最も多く、次いで「友達と遊ぶことが多い」(32.5%)ことから、休日は友達よりも家族と過ごす子どもが多いことがみてとれます。また、「習い事(音楽、水泳など)に通うことが多い」も15.5%いることから、休日に子どもを習い事に行かせている親も少なからずいることがわかりました。

# 小学生の習い事

約9割の小学生は何らかの習い事をしている。  
 男児は「水泳」(34%)、女児は「楽器・音楽」(39%)が最も多い。  
 男児・女児ともに、約4人に1人は「学習塾」に通っている。

図表2 小学生の習い事(性別)＜複数回答＞



習い事やクラブ活動などを行っているかどうか、をたずねました。

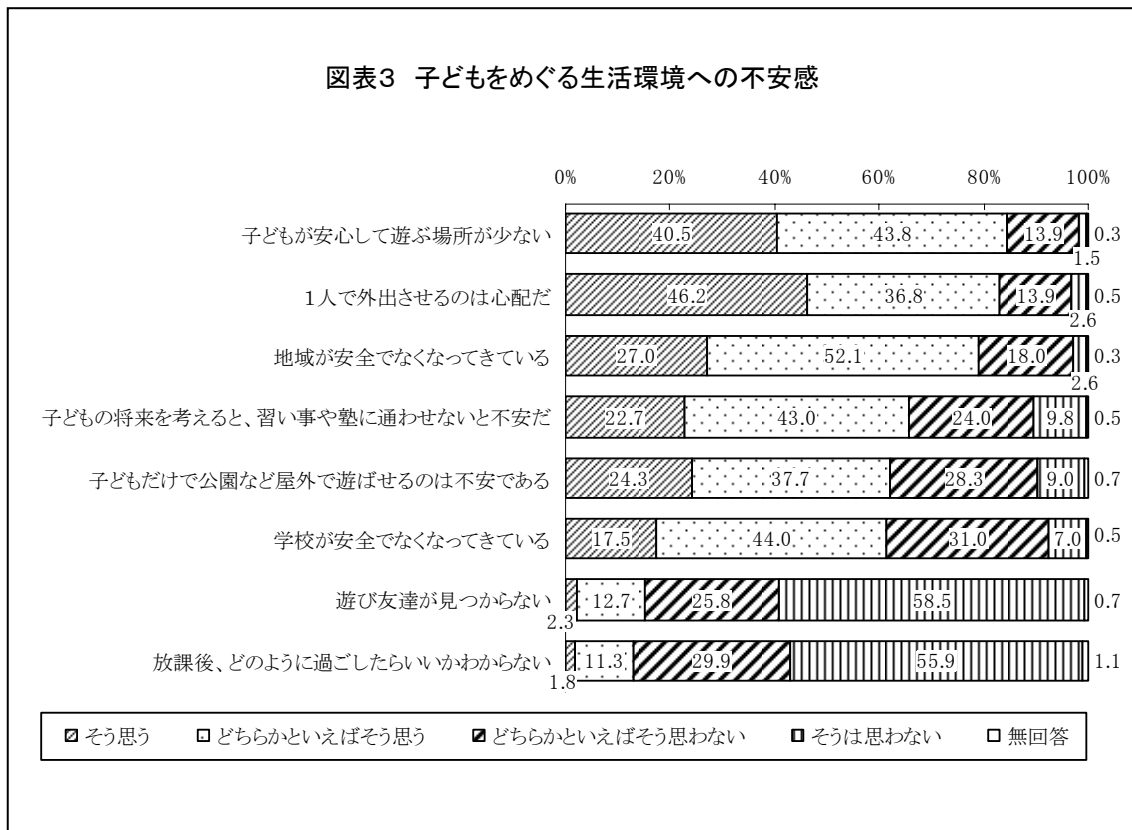
その結果、「習い事をしていない」と回答した人は、男児では10.8%、女児では7.1%と、約9割の小学生は何らかの習い事やクラブ活動などを行っていることがわかりました。

具体的な内容については、子どもの性別によって異なり、男児は「水泳」(34.0%)が最も多く、次いで「学習塾」(24.9%)、「サッカー」(15.5%)、「英語」(14.5%)、「野球」(13.8%)の順でした。その一方で、女児は「楽器・音楽」(39.6%)が最も多く、次いで「水泳」(28.2%)、「学習塾」(24.4%)、「習字」(21.4%)、「英語」(18.8%)の順に多いことがわかりました。また、男児・女児ともに、約4人に1人は「学習塾」に通っていることもみてとれます。

# 子どもの生活環境に関する不安

約8割の親は「地域の安全面」に対して、約6割の親は地域だけでなく「学校の安全面」に対しても不安を感じている。  
約6割の親は、子どもの将来を見据えた「教育面」にも不安を感じている。

図表3 子どもをめぐる生活環境への不安感



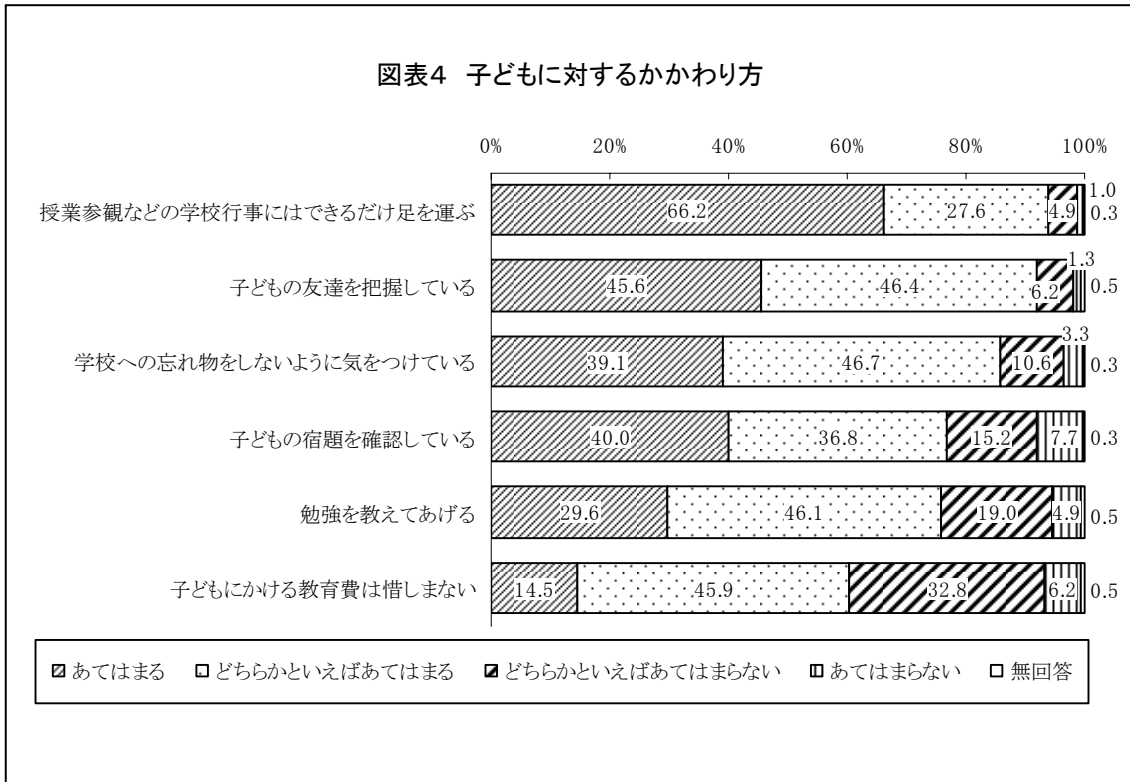
子どもをめぐる生活環境の中から、遊び場などの安全面、教育面、友達関係などについて、それらに対する不安感をたずねました。

その結果、不安感（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が高いのは、「子どもが安心して遊ぶ場所が少ない」（84.3%）や「1人で外出させるのは心配だ」（83.0%）、「地域が安全でなくなっている」（79.1%）で、**約8割の親が「地域の安全面」に不安を感じている**ことがわかりました。また、「学校が安全でなくなっている」（61.5%）ことに対して不安感を持っている親も6割以上おり、**地域だけでなく、「学校の安全面」にも不安を抱いている親が多い**ことがみてとれます。

「教育面」については、「子どもの将来を考えると、習い事や塾に通わせないと不安だ」（65.7%）といった不安感を持っている親は6割以上もいます。前述のように、何らかの習い事や学習塾に通っている割合は全体の9割にのぼり、すでに「将来に備えて」対応している親が多いことがうかがえます。

# 子どもへのかかわり方

9割以上の親は、「学校行事への参加」や「子どもの友達の把握」に積極的である。子どもの「忘れ物のチェック」や「宿題の確認」、「勉強を教えること」に関しては、8割前後の親が積極的に行っている。



普段の生活の中で、子どもに対してどのようにかかわっているか、をたずねました。

その結果、「授業参観などの学校行事にはできるだけ足を運ぶ」(93.8%)や「子どもの友達の把握している」(92.0%)への肯定割合(「あてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」)は9割以上と非常に高く、ほとんどの親は子どもの学校での過ごし方や友達関係を理解しようとしているようです。

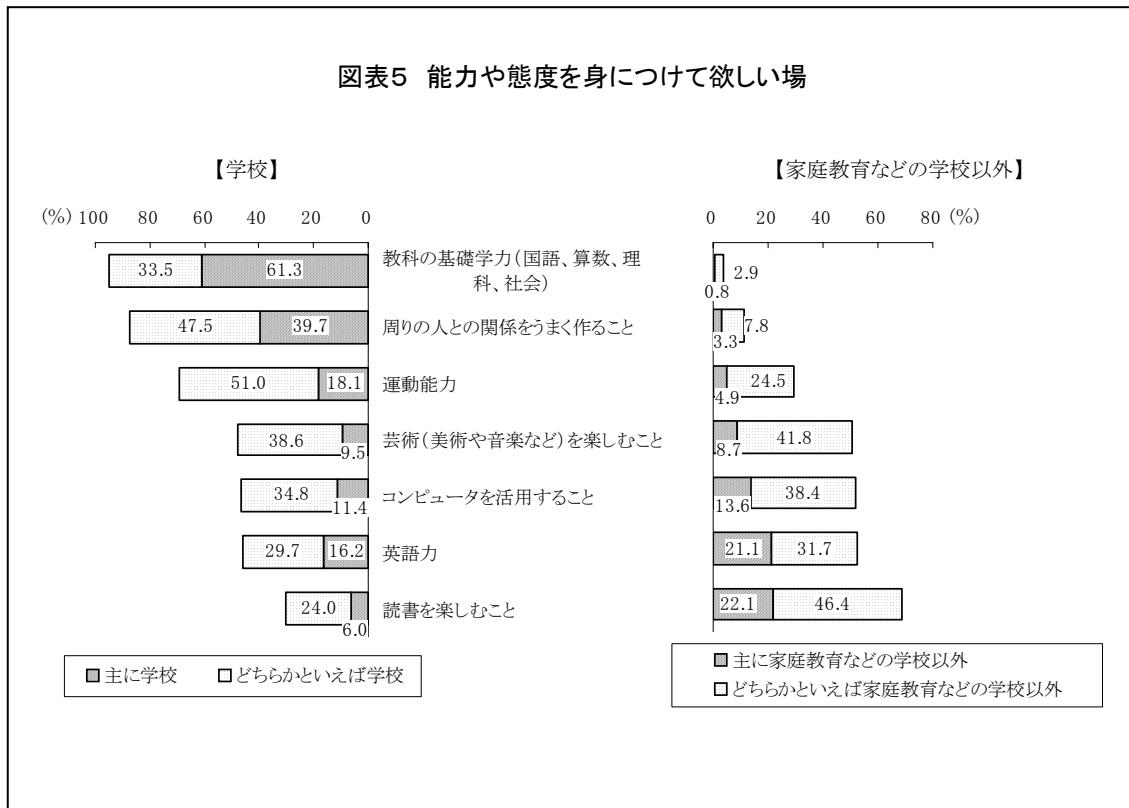
また、「学校への忘れ物をしないように気をつけている」(85.8%)や「子どもの宿題を確認している」(76.8%)、「勉強を教えてあげる」(75.7%)への肯定割合も8割前後と高く、多くの親が子どもの学校生活をサポートしている様子がうかがえます。

その一方で、「子どもにかかる教育費は惜しまない」(60.4%)への肯定割合は6割と相対的に低いことがみてとれます。

# 子どもに能力や態度を身につけて欲しい場

学校教育では、「基礎学力」「人間関係」「運動能力」。  
家庭教育では、「読書」「英語力」「コンピュータ」「芸術」。

図表5 能力や態度を身につけて欲しい場



子どもに能力や態度を身につけて欲しい場は、学校教育と家庭教育どちらか、をたずねました。

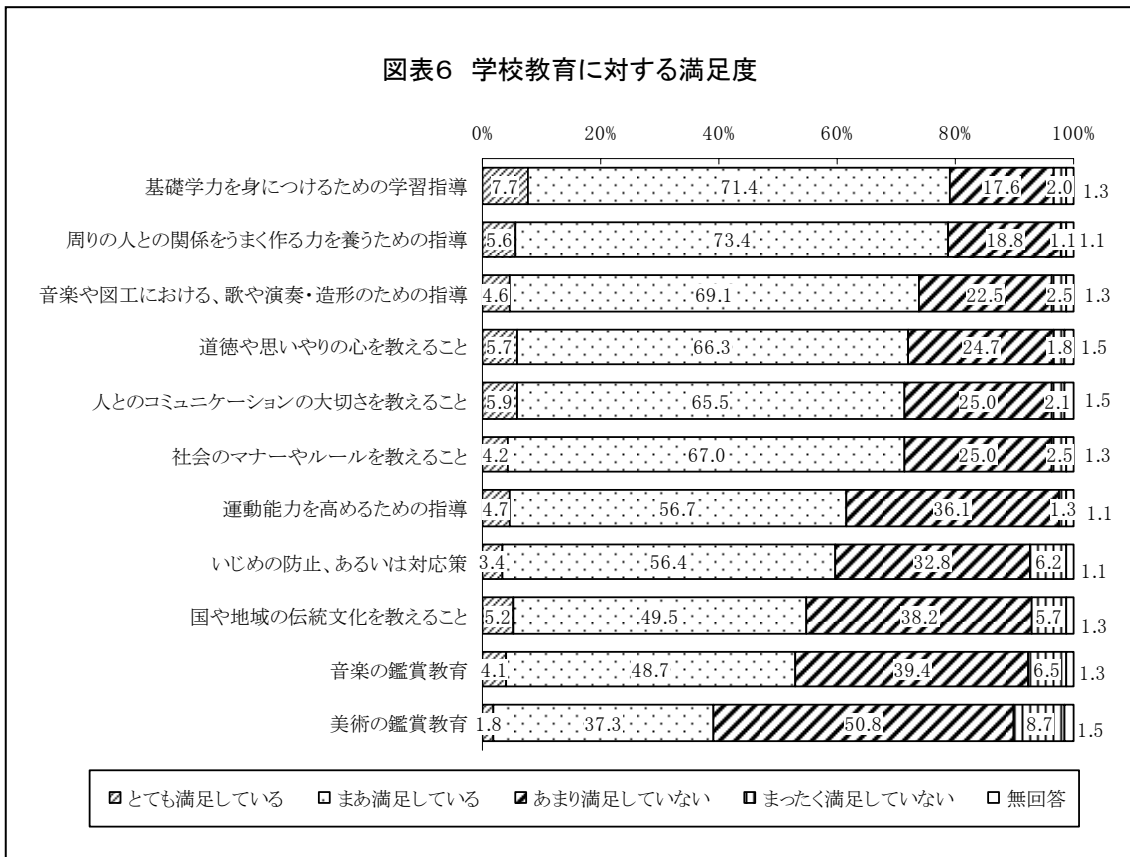
その結果、「学校教育」（「主に学校」＋「どちらかといえば学校」）に期待する割合が高いのは、「教科の基礎学力（国語、算数、理科、社会）」（94.8%）、「周りの人との関係をうまく作ること」（87.2%）、「運動能力」（69.1%）でした。特に、「教科の基礎学力」と「周りの人との関係をうまく作ること」については、圧倒的に学校教育に期待する割合が高く、「学力低下」や「いじめ」問題など、最近の各種報道も少なからず影響しているように思われます。

その一方で、「家庭教育などの学校以外」（「主に家庭教育などの学校以外」＋「どちらかといえば家庭教育などの学校以外」）に期待する割合の方が高いのは、「読書を楽しむこと」（68.5%）、「英語力」（52.8%）、「コンピュータを活用すること」（52.0%）、「芸術（美術や音楽など）を楽しむこと」（50.5%）でした。

# 学校教育に対する満足度

「学習指導」や「人間関係作り」には、約8割の親が満足している。  
 「運動能力の向上」や「いじめ防止」には、約4割の親が満足していない。

図表6 学校教育に対する満足度



子どもが通う小学校の学校教育に対する満足度をたずねました。

その結果、「美術の鑑賞教育」(39.1%) 以外、全ての項目で、半数以上が「満足している」(「とても満足している」+「まあ満足している」)と回答しており、学校教育を概ね肯定的に受け止めていることがわかりました。特に、**第1位の「基礎学力を身につけるための学習指導」(79.1%)と第2位の「周りの人との関係をうまく作る力を養うために指導」(79.0%)については、学校教育に期待通りの評価をしている親が多い**ことがうかがえます。

「美術の鑑賞教育」に次いで、「音楽の鑑賞教育」(52.8%)も「満足している」割合は低い結果になりましたが、同じ音楽や図工でも、「音楽や図工における、歌や演奏・造形のための指導」(73.7%)に対する満足度は高いことがみてとれます。これらから、多くの親は“実演”や“実技”に対する指導には満足していますが、“鑑賞教育”についてはその限りではないと思われます。

「運動能力を高めるための指導」に「満足している」割合は61.4%であることから、約4割の親は満足していないといえます。**公園など、子どもの遊び場の減少や生活習慣の変化により、子どもの体力低下が社会問題となっている中、それを危惧している親が学校に強く期待している**表れであるとも思われます。また、「いじめの防止、あるいは対応策」に「満足している」割合は59.8%であることから、約4割の親は、**最近の「いじめ」報道の影響か、学校に何らかの対応を求めている**ことがみてとれます。



## 《研究員のコメント》

今、わが国では国を挙げて少子化対策に取り組んでいます。その内容は、出生率上昇のための取り組みから、すでに生まれている子どもたちの育成に関することまで、実に多岐に及ぶ壮大なプロジェクトです。

このような中、「すでに生まれている子どもたち」に目を向け、その健やかな育ちのための課題を考えるべく、小学生を持つ保護者に対して、子どもの生活状況や子育て意識、さらに学校教育への期待や満足度などのアンケート調査を行いました。

小学校教育に対して、「基礎学力」とともに、「周りの人との人間関係づくり」に大きな期待を寄せていることが明らかとなりました。確かに、「人間関係づくり」は「学力」とともに、子どもにとって生きていくために必要かつ重要な能力です。しかしながら本来、「人間関係づくり」というものは、必ずしも学校教育でなくても、家庭や地域において様々な人たちとの触れあいの中で自然に体得できうるものでもあります。それにもかかわらず、多くの親が学校教育の場に期待を寄せるのは、近年、きょうだい数や地域の子どもの数の減少、あるいは通塾などにより、遊ぶ友達、及び機会が少なくなった結果、学校以外で人間関係の構築を学ぶ機会が減っていることを感じているからでしょう。

また、多くの親が、地域が安全でなく、「子どもが安心して遊ぶ場所が少ない」ことを指摘しています。公園で遊ぶことにも、子どもだけでは不安に思う親が多いのが現状です。外遊びができないと、運動能力の発達にも影響を及ぼします。これを補うために、運動能力を身につける場として学校教育に期待を寄せる親も少なからずいるのではないでしょうか。

このようなことから、「人間関係づくり」にしても「運動能力」にしても、近年の社会環境の変化に学校教育が柔軟に対応できるようになることが望ましいと思われませんが、学校教育のみに頼ることは本来の姿ではないでしょう。学校教育における対応も重要ですが、同時に、親も含め、地域社会の様々な立場の大人たちが協力し、子どもが安心して過ごし、遊ぶことができる環境を再構築することが必要です。そのことにより、子どもたちは遊び場の確保のみでなく、地域の多様な人々との触れあいを経験し、人間関係を学ぶことが可能となります。

今まさに、学校、地域社会、家庭が互いに協力し、次代を担う子どもの健全育成のために、育ちの環境を整備することが求められています。そのために何ができるか、それぞれの立場で全ての大人たちが思いをめぐらすことも必要だと思われま

(研究開発室 主任研究員 的場 康子)